

2019年度(平成31年度)学校評価自己評価表

加茂中学校区	校番 20	福山市立加茂中学校
最終更新日 2020年(令和2年)3月1日		

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
 ビジョン 「福山100EN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

○よさ・成果 △課題 ☆今後に向けて

◇前年度学校関係者評価の主な内容

- 今後も加茂小学校・中学校へ行ってよかった・行かせてよかったという満足感を持たせる小中一貫した取組を行ってほしい。その取り組みを通して、学力と体力もアップしていただきたい。
- 加茂小学校・加茂中学校で働けてよかったという教職員のやりがいや充実感を持たせる学校の取り組みに期待する。先生方が一人で抱え込まないようにお互い相談しやすい雰囲気を大切にしてほしい。

児童生徒の現状	
・1小1中⇒O中1ギャップは少ない	△友人との関わりや見方が固定化 ⇒互いの新たな可能性や成長に気づきにくい。
△生活面⇒Oあいさつができる	△基本的な生活・学習習慣、規範意識等に課題
・学力面⇒△「基礎・基本」の定着・思考力等に課題△家庭学習の習慣化	・学力面⇒△「基礎・基本」の定着・思考力等に課題△家庭学習の習慣化
・体力面⇒O改善傾向	中△県平均達成率23%

育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	小 中	課題発見・解決力 創造力 社会性 考える・伝える・聞く力 見通す・振り返る力 社会性
めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)		豊かな心と、郷土加茂・福山への愛着・貢献心を持ち、自律的・協働的に、自らや社会の未来を切り拓いていく子ども
中学校区として統一した取組等		①豊かなかかわり ②必然性のある課題設定 ③見通す・振り返る

III 自校

ミッション	
学校教育目標(下記◎)及び保護者・地域の願い(上記△等)を、生徒の姿で、具現化する。=「行きたい・行かせたい」加茂中	
◎学校教育目標 豊かな心を持ち、知・徳・体の調和のとれた生徒の育成 ～未来を切り拓く力を育む～	

現状 <生徒><授業> (成果○ 課題△)	
<生徒>	○明るく素直で、あいさつのできる生徒が多い
△互いに切磋琢磨し、伸びていこうとする意識や、目標を設定し、本気で挑戦したり、他校と競い合ったりする中で、達成感や喜びを味わう・共有する等の経験不足⇒自己肯定感、所属・承認意識等に課題	
△基本的な生活・学習(家庭学習)習慣、社会性(規範・他者意識・貢献等)に課題	
△不登校・不登校傾向の生徒が、減少していない	
△「基礎・基本」の定着や、読解力、「考える・伝える」力、活用(記述)問題への対応力等に課題	
△男女ともに体力テストにおける県平均達成率が低い。	
<授業>	○めあて(学習課題)の工夫や繰り返し(ドリル)学習は徹底している。
△じっくり考え・書かせるための課題設定や考え、書いたことを基にした意見等の伝え合いそして追記・修正・整理しながら、ペアやグループで考えを広げる・深める場面が指導でききていない。	
△めあてに対応するまとめ・振り返りまでの時間が十分確保されていない。	
△机間指導等による個別の学習成果・課題の見取りと手立てが十分ではない。	

育成する力		知識・技能	21世紀型“スキル&倫理観”		
めざす子ども像	ステップ I (1年)	生き て 働 く 知 識 ・ 構 造 能 力 が さ れ た	考 え る ・ 伝 え る ・ 聽 く 力	見 通 す ・ 振 り 返 る 力	社 会 性
	ステップ II (2年)		比 較 ・ 関 連 付 け て 考 え る → 分 か り や す く 伝 え る → 最 初 か ら 最 後 ま で 聽 く	達 成 す べき 目 的 ・ 目標 や 解 決 す べき 課 題 を 見 い だ す → 結 果 を 振 り 返 る	当 た り 前 の こ と が 少 し 我 慢 し て ど も, 当 た り 前 に で き る 二 規 範 意 識
	ステップ III (3年)		論 理 的 ・ 科 學 的 に 考 え る → 結 論 ・ 根 拠 等 で 伝 え る → 比 較 ・ 関 連 付 け な が ら 聽 く	學 習 内 容 ・ 進 め 方 等 を 理 解 ・ 把 握 す る → 過 程 を 振 り 返 る	感謝 ・ 思 い や り の 心 を, こ と ば や 行 動 に す る こ と が 可 能 で き る 二 他 者 意 識

研究	教科等	各教科、特別活動(行事、生徒会・学級活動)部・ボランティア活動
	主題 内容①②	「考 え る ・ 伝 え る 」力の育成 ～単元構想等を基に、意図的・計画的に～ ①考 え る 必 然 性 の あ る 課 題 (比 較 ・ 関 連 付 け) ②見 通 し を 立 て た り, 振 り 返 っ た り し た こ と を 書 く ・ 伝 え 合 う ・ 確 か め 合 う 場 の 工 夫
	めざす 授業の姿	子ども主体の学び ・疑問(なぜ・どうして?)・納得(なるほどそうか!)・達成(わかった・できた!)の場があり、(生徒も先生も)面白い授業 ・見通しを立てたり、振り返ったりすることを通して学び方を学ぶ授業

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立加茂中学校

年 目	中 期 目 標 経 営	重 点	分 類	短期経営目 標	目標達成に向けた 取組・指導・評価	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る 取組状況	△ 加セ 評価	△ 達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	△ 加セ 評価	△ 達成 評価	△ 総合 評価	改善方策
3	学 び 力 を 身 に 付 け さ せ る	★	継 続	・「考える・ 伝える」力を 育てる。	①単元構想シート ・どうして!の場を持つ ・なるほど!の場を持つ ・できた!の場を持つ ②振り返りシートの充実 自分自身の学びを深める振り返りシートの工夫	①定期テストを ・30%未満を10%以下 ・60%以上を60%以上 ・思考・活用型問題・記述式問題の通過率を50%以上にする。 ②学びの振り返りアンケートを ・振り返りが書けた生徒を90%以上にする。 ・振り返りが次の授業に役に立った生徒を90%以上にする。	①定期テスト 30%未満の生徒 →12.1% 60%以上の生徒 →61.2% 思考・活用問題通過率 →67.7% ②学びの振り返りアンケート 振り返りが書けた生徒→82.2% 振り返りが次の授業に役に立った生徒→87.5%	3	2	•授業で振り返りを書く意味を研修等で再確認し、振り返りを書かせることが目標にならないようにする。 •生徒が振り返りを書くことできる授業展開、学習内容を仕組む。そして、生徒それぞれが毎時間の学習内容が定着できるようにする。	①定期テスト 30%未満の生徒 →9.8% 60%以上の生徒 →58.8% 思考・活用問題通過率 →64.4% ②学びの振り返りアンケート 振り返りが書けた生徒→87.4% 振り返りが次の授業に役に立った生徒 →85.3%	3	2	2	•各教科が再度振りりが、学習内容の定着や考える術等の定着に繋がっているかを分析する。効果がない単元等においては、振り返りの内容や授業展開の見直しをする。
3	社会性 (他者意識) を 身 に 付 け さ せ る	★	継 続	・「協同・参 画・貢献心」 を育む。	①行事等の適切な段階で、 生徒同士の相互評価を取り入れる。 ②行事の振り返りを使って、特別活動の授業を通して日常生活とつなげる。(行動化)	①行事における生徒アンケートの肯定率を ・「達成感」を90%以上 ・「行動化」を80%以上 ・「協同・参画・貢献心」を80%以上にする。	①体育大会 「達成感」 →96.0% 「行動化」 →94.6% 「貢献心」 →95.3% 「参画」 →95.6%	3	2	•数値目標は達成している。「協同」の質を高めるため、クラスや学年、学校全体での「行動化」を実践、自覚できるように活動を仕組む。	①文化祭 「達成感」 →92.0% 「行動化」 →91.3% 「貢献心」 →92.2% 「参画」 →94.1%	3	3	3	•特別活動の授業において、 ①生徒同士の相互評価を行うことで、自己肯定感を高める。 ②行動化の振り返りを行うことで日常化を図る。
3	体力を向上させる	★	継 続	・持久力を中 心に、体力を 更に向上さ せる。	①体育的行事と体育授業、 特別活動(部活動等)との関連を図る。 ②新体力テストを全校で実施する。前年度の記録や県平均などを基に目標設定を行う。	①体力テストにおいて、 県平均以上の種目を前年度より増やす。 ②持久力に係る再テスト自己ベスト率を80%以上にする。	今 年 度	男 子	女 子	•体育の授業での活動量を増やす。 •持久力(シャトルラン)の再テスト及び来年度の測定に向けて記録向上への意識を高めるために、まず全校ベスト10と前年度からの学年別の推移と学校平均値を掲示する。また、駅伝マラソン大会では、クラス対抗みんなで走ろう週間(生徒会の取り組み)、マラソン大会自己目標記録の設定をする。	②シャトルラン再測定 自己ベスト更新率 (%) 全校→67%	3	2	2	•体育の授業で持久力向上のための補強運動を増やす。 •体力テストは、本年度同様に学校一斉で行う。まず教職員が体力テスト、駅伝・マラソン大会の目標値を意識する。また、2つの行事を集団づくりの柱の一つとして、位置づける。

3	保護者満足を高める	継続	・学校教育活動に対する、保護者満足度をより高める。	①家庭連携(その日のことはその日のうちに) ②情報発信(各種便り、HP)	①家庭連携・情報発信に係る教員・保護者アンケート肯定率を85%以上にする。	①家庭連携を図るために通信や家庭連絡を行っている教員 75%保護者 82%であるが、保護者アンケートの「我が子は大きな不安もなく安心して学校に行っています」の数値は 86.5%である。	3	2	・学級通信、学年通信等を活用して、保護者に情報を発信する。また、さらに、寄り添う指導を行う。	①家庭連携を図るために通信や家庭連絡を行っている教員 63.6%保護者 83.1%であるが、保護者アンケートの「我が子は大きな不安もなく安心して学校に行っています」の数値は 85.2%である。	3	3	3	・保護者にとってタイムリーな学級通信や学年通信の発行を行う。担任が気になる些細なことでも家庭連携を行う。
1	組織マネジメントの向上 小中連携を高む学校における	新規	・中学校区の課題に小中で連携し、取組むシステムをつくる。 ・校内の推進体制を整備(スクラップアンドビル)し、PDCAサイクルに基づく業務改善の取り組みを全校で進める。	①小中の連携を密にし、課題を共有し、改善を図る。 ②一人一人の業務改善の意識を高めるために、各分掌で「分掌行動計画シート」を作成し、学期末に進捗状況を報告する。	①中学校区推進協議会と課題に即した4部会を年4回以上行う。 ②「分掌行動計画シート」による学期末の進捗実施率を80%以上にする。	①中学校区推進協議会を4月と8月に、課題に即した4部会を6月に行い、加茂中校区の課題を共有している。 ②「文書行動計画シート」を作成し、学期末の進捗実施率は79.6%である。	3	3	・今後、中学校区推進協議会を12月と3月に、課題に即した4部会を10月と1月に、新1年生の生徒の実態を3月に交流することで、小中の連携を更に密にしていく。 ・各主任を中心に、先を見通した仕事内容に改善していくことで、一人一人の業務改善の意識を高めていく。	①中学校区推進協議会を4月8月12月3月と4回、課題に即した4部会を10月1月3月と3回と、年7回開催することができた。 ②年度末の「文書行動計画シート」進捗実施率は92.1%である。	3	3	3	・校区の課題を4点に絞り、両校の実態を明確にする中での交流ができる、取り組む方向が明らかとなった。さらに今後もその取り組みを進めていきたい。 ・今後も「分掌行動計画シート」を作成し、「いつまでに・何を・どこまで」するか、自分の業務改善の意識を高めていきたい。

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかつた。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかつた。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多くなった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかつた。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかつた。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかつた。